

# 絵葉書に見る戦前のパノラマ絵葉書

(大正から昭和 10 年頃撮影)

## 三次市小文町在住・田森孝仁

古い絵葉書が、町や風景の移り変わりを再発見させてくれます。昔の風景を求め、県内を中心に戦前の絵葉書収集を始めて 20 年、およそ 1000 枚の絵葉書が手元に残りました。中でも、2 枚から連続で横並びに撮影したパノラマ絵葉書は異彩を放っています。

江戸時代の飛脚制度に代わり、近代日本の郵便制度は明治 4 年 (1871 年) に始まりました。明治 6 年 (1873 年) に官製葉書が誕生。明治 33 年 (1900 年) には私製葉書が解禁され、絵葉書も発売されました。当初の絵葉書は、西洋に倣い絵が印刷されていましたが、次第に風景や名所旧跡を写した写真の絵葉書が主流になりました。戦前は、個人でカメラを所有する人は少なく、訪れた土地の絵葉書を買って求め、旅の記念に家族や知人に宛てるのが一般的でした。これらの絵葉書が、「失われた風景」を今に伝える貴重な記録となっているのです。

展示したパノラマ絵葉書が撮影された大正から昭和 10 年頃は、フィルムはガラスに感光剤を塗布した「ガラス乾板」でした。当時の写真は等倍に撮影しプリントされました。そのため「ガラス乾板」に絵葉書と同じサイズに撮影されました。カメラは組み立て式の「暗箱」で、焦点を合わせるガラス板に絵葉書サイズの枠を描き、右左をピッタリ合わせて隙間なく撮影しました。パノラマ写真が上下にズレたり、左右に隙間があるのは、三脚の水平が出ていなかったり、左右の写真のつながりが良くなかった事が原因です。これらを含め、当時の機材や写真師の腕に思いを馳せながら、パノラマ写真を楽しむのも味わいがあります。パノラマ絵葉書には 2 枚以上を繋いだ絵葉書も見られますが、枚数が多いパノラマ絵葉書に人気があったかと言うとそうでもなく、アルバムに収まらない横幅の長い 3 枚以上のパノラマ絵葉書はかえって敬遠されたようです。

なお、資料として、鳥観図を展示します。昭和 6 年 (1931 年) に当時の双三郡三次町が発行した、吉田初三郎の「備後三次町鳥瞰図」や、帝釈峡、三段峡、宮島など観光地が宣伝のために発行した、「折れ本」と言う折り畳める印刷物です。

パノラマ絵葉書と鳥観図から、往時にタイムスリップして当時の人々の生活や、変り行く風景、先達の町おこしにかかる意気込みを読み取っていただければ幸いです。